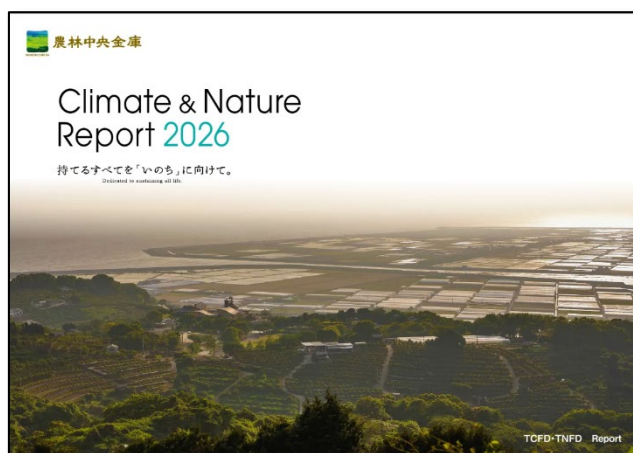




「Climate & Nature レポート 2026」の発行について

農林中央金庫（代表理事理事長：北林 太郎、以下、「当金庫」）は、本日「Climate & Nature レポート 2026」（以下、「本レポート」）を発行し、当金庫のホームページに掲載いたしましたのでお知らせいたします。



1. 本レポート作成の背景

気候変動と自然資本の劣化が加速する中で、当金庫の基盤である農林水産業を取り巻く情勢は大きく変化しています。

こうした情勢を踏まえ、当金庫は農林水産業と密接にかかわる気候・自然関連のリスクを「ビジネスリスク」として認識し、事業活動の外側ではなく、組織・事業戦略およびリスクマネジメントの中核に据えることの重要性を強く認識しています。こうした考えのもと、2023年度より気候と自然の統合開示に取り組んでいます。

2026年度版の本レポートでは、「分析・開示」段階から「実践・高度化」段階への移行を意識し、内容の一層の充実を図っています。

2. 本レポートの主なポイント

- 本レポートは昨年度に引き続き、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言および自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）提言を踏まえ、気候・自然の統合シナリオ分析の試行や、統合的な移行計画策定に向けた検討など、当金庫の気候・自然に関する取組みを、可能な限り一体的に開示しています。
- 大学・スタートアップとの連携によるサプライチェーン分析、日本発のネイチャーフットプリント指標を活用し、自然関連インパクトを計測するなど、ポートフォリオにおける自然への依存とインパクトの評価の高度化を図っています。
- 昨年度より取り組んでいる食農バリューチェーンの移行（トランジション）について、その方向性の整理を進めるとともに、広義化・共創を軸とした当金庫の役割の具体化・高度化を図っています。

詳細については、以下の URL よりご覧ください。

掲載 URL : <https://www.nochubank.or.jp/sustainability/disclosure/report/>当金庫は、「持てるすべてを「いのち」に向けて。～ステークホルダーのみなさまとともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます～」をパーパス（私たちの存在意義）に定めています。当金庫は、パーパスの実現に向けて、今後も様々な環境・社会課題の解決と情報開示の推進に取り組んでまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 経営企画部 広報コミュニケーション班
（藏方・丹羽） Tel : 03-6362-7172



農林中央金庫

【別紙】これまでの開示の歩み

